

2012年8月28日 モンレージュ

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2012 年度第 2 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2012年度第2四半期業績

厳しい経済環境に更なる適応

- 選択された事業部門にリフォーカス
- 財務の健全性の強化
- 流動性ポジションの強化

引き続き減損による影響

リテール・バンキングと資産管理部門(資産運用、保険、プライベート・バンキング)の堅調な展開業績

クレディ・アグリコル・グループ*

堅調な業績結果とより強固なソルベンシー・レシオ

純利益グループ帰属分: 8億6,300万ユーロ (前年同期比2.1%減)

コア・ティア1レシオ: 11.3% (2011年度末から1.1%上昇)、EBAレシオ: 10.7%

手元現金準備額は、1,510億ユーロと、

短期純負債(1,100億ユーロ)に対し極めて高水準。

*クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行100%を含む

クレディ・アグリコル S.A.

困難なビジネス環境を乗り越え堅調な展開に推移

純利益グループ帰属分: 1億1,100万ユーロ

特定項目調整後純利益グループ帰属分*: 8億5,100万ユーロ

ギリシャ関連費用: -3億7,000万ユーロ

インテサ・サンパオロ株式の減損費用: -4億2,700万ユーロ

ティア1 レシオ: 11.9%; コア・ティア1: 9.6% (2011年末から1.0%上昇)

*インテサ・サンパオロとSACAM International株式の減損費用、ギリシャ関連費用、社債発行の再評価、事業適応計画の影響額控除前。

クレディ・アグリコル・グループ

2012年第2四半期のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は8億6,300万ユーロで、2011年第2四半期(−2.1%)と同水準、2012年第1四半期比では7.2%増加しました。クレディ・アグリコルS.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは、欧州のマクロ経済が不安定で極めて悪化している中で、この業績は当グループの主なビジネス活動の堅調な事業展開を反映していると述べました。

クレディ・アグリコル・グループは、地域銀行やLCLによって実行された4,820億ユーロ以上のローンをフランスの経済に提供する金融サービス会社としてリーダー的役割を担いながら、リテール、法人双方の顧客を支援するために、リテール・バンキングで堅調な事業展開を維持しました。その結果、過去9ヶ月間フランスのGDP成長率がゼロにもかかわらず、当グループのバンキング・ネットワークは2011年6月から2012年6月の間にローン総残高を2.4%増加させました。

特に地域銀行は、貸出し(前年同期比2.8%増)、預金共に引き続き事業を拡大しました(証券投資におけるリスク回避を求める顧客によって、オフ・バランスシート預金は3.9%減少しましたが、オン・バランスシートが堅調なパフォーマンスで6.4%増加したことから、相殺され、預金は全体で1.8%増加しました)。その結果、地域銀行は順調に収益を維持し、貸出／預金比率が改善しました。当比率は2011年12月末時点の129%から127%に縮小しました。

全ての事業部門、特にリテール・バンキングは、極めて堅調に事業目標水準を達成しました。2012年度第2四半期の収益は前年同期比8.1%減少しましたが、これは歴史的な高水準の収益を記録した2011年度第2四半期と比較しての減少でした。(当グループの信用リスクにリンクした社債発行の再評価、インテサ・サンパオロの株式減損、ギリシャ関連費用、事業適応計画の費用による影響額を除いた)修正後の収益は、高収益だった前年同期に対して僅か4.2%減少しました。この極めて厳しい経済環境において、当グループの債務を削減する努力を考慮に入れた場合、当期の収益結果は堅調な事業展開力を反映しています。

クレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは、財務状況を強化することが当グループの優先事項であることを再確認し、1年前に開始した当グループの変革を効率的に追求していくことの重要性を強調しました。事業適応計画は、当初計画されたスケジュールを前倒しで進められており、流動性必要額の削減は既に76%まで実行されています。リスク・ウェイト資産の削減目標は既に達成しており、コリレーション取引の移転も含めて480億ユーロ削減されました。

ソルベンシーに関しては、2012年6月30日現在のコア・ティア1レシオは11.3%で、2012年度第2四半期は40ベース・ポイント上昇、2012年上半期は110ベース・ポイント上昇しました。これは、地区金庫(Local Banks)が発行した出資証券の寄与(上半期は+4億ユーロ)とリスク・ウェイト資産に関わる事業適応計画の効果を含んでいます。

2012年6月30日現在のEBAレシオは10.7%でした。当グループは、2013年度末にはバーゼル3を完全に満たし、普通株式ティア1レシオを10%以上にするという目標をあらためて表明しました。

クレディ・アグリコルS.A.

2012年度第2四半期と上半期の業績見直しのために、2012年8月27日ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

純利益グループ帰属分は、2011年第2四半期の3億3,900万ユーロに対し、1億1,100万ユーロとなりました。これには4つの特定項目が含まれています。それらは、当グループ自らの信用リスクに関連する社債発行の再評価(純利益グループ帰属分に対する影響額は+1億4,000万ユーロ)、インテサ・サンパオロの株式とSACAM Internationalの株式の減損費用(それぞれ4億2,700万ユーロ、-6,700万ユーロ)、ギリシャ関連費用(-3億7,000万ユーロ)、事業適応計画に伴う費用(-1,600万ユーロ)です。クレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは、これらの項目の修正後の調整済み純利益グループ帰属分は8億5,100万ユーロとなり、経済全体が直面する極めて困難な状況にもかかわらず堅調な事業展開を反映していると述べました。

リテール・バンキングと資産管理の事業部門は、さらに事業拡大を記録し、景気低迷が続く中でも堅調に事業展開していることを確認しました。フランス国内のリテール・バンキングでは、オン・バランスシートの預金が2011年6月末比7.7%増加し、ローン残高は高い水準にあった2011年との比較でも2.4%増加しました。2012年度上半期には、全ての資産管理事業部門がグローバル規模で運用する資産が、330億ユーロ増加しました(マーケット、通貨によるプラスの影響およそ190億ユーロを含む)。

リテール・バンキングでは2012年第2四半期のLCLの純利益グループ帰属分は、前年同期比2.6%増加しました。同期間で、カリパルマの純利益グループ帰属分は6.2%増加しました。資産管理部門では、保険部門(2億8,100万ユーロ)と資産運用サービス部門(3,800万ユーロ)が引き続き大きく伸びました。資産運用部門では、第2四半期の減少は18.3%に留まり、上半期では2.8%の伸び率でした。2011年9月に事業再編計画を開始した2つの事業部門、法人及び投資銀行部門と専門金融サービス部門は、積極的にビジネスと現金利用の削減を管理しており、良好な業績結果(それぞれ2億8,900万ユーロと5,600万ユーロ)を維持しています。

クレディ・アグリコルS.A.は少数株主持分投資に関する管理方針を押し進めました。過去数ヶ月間にわたって以下の売却が行われました。クレディ・アグリコルS.A.のインテサ・サンパオロの持分は8月末時点で2%以下となりました。更に、バンキンターの持分は8月にバンキンターが実施した優先株式との交換により20%以下となりました(クレディ・アグリコルS.A.は参加せず)。BES Vidaの売却も完了しました。

2012年第2四半期中に、当グループのブローカレッジ子会社であるCLSAをCITIC証券に売却するための契約内容が最終段階へと進められました。第1段階で、CA-CIBが保有するCLSAの株式の19.9%がCITICS International(中信証券)に売却され、CA-CIBは残り80.1%に対しプット・オプションを受け取ります。これは2013年中頃までが行使期間となります。更に、CA-CIBは欧州のトップの独立系証券会社であるケプラー・キャピタル・マーケットズ(Kepler Capital Markets)とケプラー・シュブルー(Keppler Cheuvreux)を創設するための独占交渉に入りました。この2つの取引によって2012年度上半期の決算報告に何らかの財務的な影響が生じることはありませんでした。

更に、クレディ・アグリコルS.A.の取締役会は、8月8日にギリシャの子会社エンポリキの買収提案を受け取ったことを正式に認めました。ギリシャ中央銀行、ギリシャ金融安定化基金(HFSF)、欧州委員会との話し合いが同買収取引の契約条件について続けられており、現段階ではまだ更に進んだ交渉に入るかどうかは決定されていません。

*

* *

以下のような事業戦略をとった結果、クレディ・アグリコルS.A.は引き続き流動性とソルベンシー・レシオを強化しました。

- 平均年限6.8年で、ミッド・スワップに対し132ベース・ポイントの平均スプレッドで年初以降122億ユーロを調達した後、8月15日時点で2012年度中長期債発行プログラムの102%を完了しました。2011年末に有利なスタートを切った結果、120億ユーロと予想されたプログラムに対して、166億ユーロを調達しました。
- 短期純負債額は2011年6月30日から2012年6月30日の間に600億ユーロ削減され、1,100億ユーロとなりました。この削減は主に事業適応計画の目標に沿って各事業部門の必要額を段階的に削減したことと、短期負債を中・長期負債に借り換えたことによります。同期間で、流動性準備金は補充されて1,510億ユーロに達しました。これには中央銀行への預金(170億ユーロ)は含まれていません。尚、流動性準備金は短期純負債額の137%を占めています。

社会的・環境的責任:クレディ・アグリコルS.A.は調達のためのオンブズマンを任命

クレディ・アグリコルS.A.グループは、毎年、ほぼ60億ユーロ近くの（社会的・環境的配慮に基づいた）購入を行う、フランスでも主要なバイヤーです。責任のある調達ポリシーの一環として当グループは、大手のバイヤー間の関係や中小企業と大企業の関係を統制するフランス財務省後援の憲章に署名しました。当憲章は10の誓約から成り、サプライヤーが公平な財政措置を受けられるように、またバイヤーとサプライヤーが相互に依存し合うリスクを削減することを意図しています。当グループは、今年は憲章を順守するために、企業間リレーションズのためにオンブズマンとしての役割を果たす持続可能な発展の責任者（Head of Sustainable Development）を任命しました。サプライヤーは、もし異議があった場合にはオンブズマンに苦情を申し立てることができます。

決算スケジュール

2012年11月9日	2012年度第3四半期決算発表
2013年2月20日	2012年度第4四半期及び2012年度決算発表
2013年5月7日	2013年度第1四半期決算発表
2013年5月23日	株主年次総会
2013年8月6日	2013年度第2四半期決算発表
2013年11月7日	2013年度第3四半期決算発表

クレディ・アグリコルS.A. 連結決算

(in millions of euros)	Q2-12	Change Q2/Q2	H1-12	Variation H1/H1
Revenues	4,751	(14.1%)	10,176	(6.1%)
Operating expenses	(3,272)	(1.8%)	(6,479)	(1.9%)
Gross operating income	1,479	(32.8%)	3,697	(12.6%)
Cost of risk	(1,164)	+3.5%	(2,934)	+50.7%
Operating income	315	(70.7%)	763	(66.6%)
Equity affiliates	225	(16.2%)	640	(9.9%)
Net income on other assets	41	nm	36	nm
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	581	(40.6%)	1 439	(45.2%)
Tax	(409)	(30.3%)	(1,004)	(9.3%)
Gains/pertes nettes sur activités arrêtées	2	(86.5%)	4	(69.2%)
Net income	174	(57.5%)	439	(71.4%)
Minority interests	63	(8.8%)	76	(60.8%)
Net income Group share	111	(67.4%)	363	(72.9%)

2012年第2四半期収益は48億ユーロ、2012年度上半期収益は102億ユーロでした。収益と相殺される項目が2011年度第2四半期には合計+2億5,600万ユーロ含まれていたのに対し、2012年度第2四半期は-1億1,700万ユーロ含まれていました。

- 事業適応計画に基づくファイナンス事業のローン・ポートフォリオの売却の影響額は-3,900万ユーロでした。
- 売却可能有価証券の下落が長期化しており、インテサ・サンパオロの株式減損は-4億2700万ユーロでした。
- エンポリキの収益は2011年第2四半期の1億7,500万ユーロに対し、1億2,500万ユーロでした。
- 社債発行の再評価が2011年第2四半期の+8,200万ユーロに対し、+2億2,400万ユーロでした。

営業費用は抑えられました。2012年度第2四半期は1.8%減少し、上半期は1.9%減少しました。

2012年度第2四半期の**営業総利益**は、前年同期比32.8%減の14億7,900万ユーロでした。特定項目を除いた場合は16.2%の減少となります。

欧州包括合意によるギリシャ支援策に関連する2億200万ユーロと、子会社のエンポリキ関連のリスク関連費用2億7,700万ユーロを含む、2011年度第2四半期のリスク関連費用が11億2,500万ユーロだったのに対し、2012年度第2四半期の**リスク関連費用**は11億6,400万ユーロでした。これらの影響額を修正後のリスク関連費用は、主にイタリアのカリパルマ (Cariparma) のリスク関連費用増加と、2012年度第

2四半期に計上されたアゴス (Agos) の追加引当金8,400万ユーロによって、23.8%増加しました。

不良債権(リース・ファイナンスの顧客取引を除く)は238億ユーロとなり、顧客ローン、銀行間ローンの総残高の4.6%に相当し、2011年12月31日時点と同様の水準でした。

不良債権は、2011年12月31日時点で特定引当金によって54.0%カバーされたのに対し、55.1%までカバーされました。共同積立金を含む不良債権引当率は70.7%で、2011年12月末比130ベース・ポイント上昇しました。

2012年度第2四半期の**関連会社からの収益**は前年同期比16.2%減少し、2億2,500万ユーロとなりました。地域銀行からの寄与は14.0%減少し、1億7,300万ユーロに達しました。

税引前利益は、2011年度第2四半期の9億7,800万ユーロに対して、5億8,100万ユーロとなりました。

課税率は、非控除費用が多かったためにこれまでと同様明らかに高い水準となりました。主にギリシャとインテサ・サンパオロは課税率が高くなりました。4億900万ユーロの税引後(2011年度第2四半期比-30.3%減)、クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分は2011年度第2四半期の3億3,900万ユーロに対し、1億1,100万ユーロとなりました。

予定よりも前倒して実行される事業適応計画

当グループは、2011年12月14日に発表された事業適応計画を着実に実施しており、以下の主要な3項目に焦点を当てています。

- リテール・バンキング部門：貸出／預金比率の全般的な改善。
フランス国内、海外共に当グループの支店ネットワーク全般にわたってオン・バランスシートの預金を伸ばし、ローン残高の伸びを管理し、貸出／預金比率を2011年6月末時点の128.8%から123.7%に改善しました。
- 専門金融サービス：流動性必要額の削減と資金調達源の多様化。
消費者金融及びリース・ファイナンス、ファクタリング部門共に残高の伸びが管理されました。CACFは第2四半期にフランス国内とポルトガルのノン・パフォーミングローン6億ユーロを売却しました。7月には、CAL&Fはローン・ポートフォリオを3億ユーロで売却しました。
同期間で、主に預金流入と証券化による新規の資金調達源が開発されました。CACFはドイツでリテール向けの預金ビジネスを立ち上げ、フランスでは7月に6億ユーロの証券化を実現しました。6月には、CAL&Fはリース・ファイナンスのおよそ10億ユーロの売掛債権を証券化しました。
- CIB：更なる資産売却と残高の管理。

ファイナンス事業のローン・ポートフォリオ売却は、引き続き2012年度上半期も行われ、減損比率は低水準で維持されました(売却開始から平均2.2%)。CDOとRMBSの売却は既に当初の目標を超えており、この事はパーゼル3のリスク・ウェイト資産の削減にも寄与しました。

その結果、2012年6月末現在で、資金調達必要額の削減目標の76%を達成しました。リスク・ウェイト資産に関する事業適応計画は6月末現在で完全に遂行されており、コリレーション取引の移転を含めてリスク・ウェイト資産は480億ユーロ削減されました。

資金調達必要額の削減

€bn At current exchange rate	Realised in H2-11	Realised in Q1-12	Realised in Q2-12	Total realised up to 30/06/12	Target between 30/06/11 and 31/12/12	% realised
• Retail banking	- 9	- 1	- 8	- 18	- 23	
• Specialised financial services	- 3	- 2	- 2	- 7	- 9	
• Adjustment plan	- 1	- 1	- 1	- 3		
• Securitisation and other measures	- 2	- 1	- 1	- 4		
• CIB	- 11	- 9	+ 7*	- 13	- 18	
at constant exchange rate	- 16	- 7	+ 3	- 20		
Total funding needs reduction	- 23	- 12	- 3	- 38	- 50	76%
At constant exchange rate	- 28	- 10	- 7	- 45		

* 為替によるマイナスの影響額(40億ユーロ)と CIBの幾つかの継続事業に対する流動性の再配分を含む(主に債券部門と商業銀行部門)。

リスク・ウェイト資産の削減

€bn At constant exchange rate	Realised in H2-11	Realised in Q1-12	Realised in Q2-12	Total realised up to 30/06/12	Target between 30/06/11 and 31/12/12	% realised
Adjustment plan						
• SFS	- 1	- 2	- 1	- 4	~ - 5	
• CIB	- 11	- 16	- 3	- 30	~ - 30	
• Current impact (Basel 2.5)	- 7	- 5	- 1	- 13	~ - 18	
• 2013 impact (Basel 3)	- 4	- 11	- 2	- 17	~ - 12	
Total adjustment plan	- 12	- 18	- 4	- 34	~ - 35	97%
Other measures						
• CIB – sale of market risk of correlation book (net impact)		- 8	- 6	- 14		
Total RWA reduction (including Basel 3 impacts)	- 12	- 26	- 10	- 48		

財務状況

2012年第2四半期中、クレディ・アグリコルS.A.は財務ポジションを強化しました。コア・ティア1レシオは、2011年12月31日時点の8.6%、2012年3月31日時点の9.4%に対し、2012年6月30日現在で9.6%となりました。

コア・ティア1レシオの前期比での変化は、主にリスク・ウェイト資産の減少によるものです。リスク・ウェイト資産の減少は、特にCA-CIBにおいて顕著でした。この減少は事業適応計画の導入とコリレーション取引に関連するマーケット・リスクの売却によるものです。クレディ・アグリコルS.A.のティア1レシオとソルベンシー・レシオは、2012年6月30日現在それぞれ11.9%、14.1%で、2012年度上半期中に両レシオは70ベース・ポイント上昇しました。

リスク・ウェイト資産は、2011年12月31日時点の3,337億ユーロから、2012年6月30日現在には3,022億ユーロへと315億ユーロ減少しました。

流動性

クレディ・アグリコル・グループの短期負債合計金額(当グループの資金部門が市場参加者を通じて調達した370日以内償還債券の発行済み残高)は、2011年6月30日時点1,850億ユーロだったのに対し、2012年6月30日現在では1,270億ユーロでした。当グループは6月末に170億ユーロの手元剰余金を保有しており、中央銀行へのオーバーナイト預金に相当しました。

2012年度第2四半期のドルのポジションは、2012年3月31日時点と比較して安定していました。米国での負債が僅かに増加し、2012年度第1四半期には短期負債合計の4%を占めていましたが、現在は5%となっています。米ドル建ての負債の割合も、2012年3月31日時点の17%から21%へと増加しました。国別では、現在もフランスが短期負債の半分以上を占めています(54%)。

2011年6月以降、中央銀行への預金を除く短期負債は600億ユーロ削減されました。

この短期負債の減少の理由としては、事業適応計画に沿って各事業部門の資金必要額380億ユーロを段階的に削減してきたこと、50億ユーロの短期負債を中・長期負債に借り換えたこと、中央銀行へのレポやアクセスを通して流動準備金を使ったことが挙げられます。

2012年6月30日現在、市場流動性のある即時利用可能な資産準備金、或いは中央銀行から即時利用可能な割引換算後の資産準備金は、中央銀行への預金を除いて1,510億ユーロに達しました。このうち中央銀行から即時利用可能な資産準備金が1,350億であり、2011年12月31日時点比410億ユーロ増加しました。これは短期純負債の137%に相当します。証券化可能な高信用のリスク資産の大規模な基盤があることによって、新規準備金が再構築されてきました。

資産準備金は、中央銀行の適格資産が600億ユーロ(準備金合計の40%)、中央銀行の適格要件を満たす市場流動性証券が670億ユーロ(44%)、その他の市場流動性のある証券が160億ユーロ(11%)、証券化及び再証券化トランシェの80億ユーロ(5%)から成ります。

中・長期資金調達では、2012年8月15日にクレディ・アグリコルS.A.はMTNプログラム設定額(2012年は120億ユーロに設定)以上の起債を行いました。設定額充足率は、2011年度のプログラムに加えて、2011年度末の発行分を含め138%でした。2011年度の発行分を含めない場合は、年初以来調達された122億ユーロを上回る102%となりました。平均年限は6.8年で、平均スプレッドはミッド・スワップに対し132ベース・ポイントでした。2011年度中のプログラム200億ユーロに加えて、2011年度末時点で発行が完了した44億ユーロを含めた場合、同充足率は138%でした。

同時に、当グループは他の資金調達方法へのアクセスも開発しています。それらは、リテール銀行のネットワークと専門子会社による調達です。2012年6月30日現在、地域銀行によって25億ユーロが調達され、LCLとカリパルマはそれぞれのネットワークで33億ユーロを調達、主に私募によるストラクチャード・ファイナンスを通してCA-CIBが26億ユーロを調達、クレディ・アグリコル消費者金融を通して12億ユーロが調達されました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. -クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q2-12	Change Q2/Q2	H1-12	Change H1/H1
Net income accounted for at equity method (at about 25%)	164	(10.9%)	391	(4.9%)
Change in share of reserves	9	(43.8%)	154	(5.5%)
Share of income from equity affiliates	173	(14.0%)	545	(5.2%)
Net income Group share	173	(14.0%)	545	(5.2%)

地域銀行のビジネスは引き続き拡大し、貸出しとオン・バランスシートの預金は均衡のとれた伸びを見せました。

オン・バランスシートの預金が前年同期比6.4%増のほぼ3,210億ユーロとなり、顧客預金は5,544億ユーロに達しました。これは主に定期預金(22.9%増)の伸びによるものです。オフ・バランスシートの預金は、顧客が証券におけるリスク回避を求めたため、2011年6月から2012年6月の間に3.9%減少しました。一方、生命保険(預金型)は、市場の低迷にもかかわらず前年同期比で安定しました。

ローン残高は前年同期比で2.8%増加し、3,943億ユーロに達しました。これは住宅ローンの4.3%増と中小企業及びスモール・ビジネス・セグメントの業績が上昇したことによります。一方で、消費者金融ローンは減少しました。

その結果、貸出／預金比率は一段と強化され、2011年12月末の129%に対し2012年6月末には127%となりました。

2012年度第2四半期の地域銀行の収益(グループ内取引修正後)は、2011年度第2四半期比5.6%減の32億ユーロとなりました。利ざやが引き続き安定していたことから、同期間の顧客ビジネスの収益は安定しました。一方で、仲介手数料は前年同期比で3.9%減少しました。これは特に証券ビジネス・セグメントでの減少によるものです。ポートフォリオの収益は、地域銀行がSACAM Internationalの減損費用を計上したことにより、-2億6,800万ユーロの影響を受けました。SACAM International はエンポリキ及びカリパルマの株式を保有しています(クレディ・アグリコルS.A.の純利益に対する影響額は-6,700万ユーロ)。この影響額を除いた場合の収益(住宅購入貯蓄プランを除く)は、前年同期比0.3%の減少でした。

第2四半期の費用は、引き続き抑えられて、僅かに1.2%増の19億ユーロとなりました。

第2四半期のリスク関連費用は大幅に減少し、前年同期比52.2%減の2億1,600万ユーロとなりました。これは共同積立金の大幅な減少によるものです。2011年度第2四半期のリスク関連費用はローン残高の48ベース・ポイントに相当したのに対し、2012年度第2四半期のリスク関連費用はローン残高の22ベース・ポイントに留まりました。不良債権に対する引当金比率(共同積立金を含む)は2012年6月30日現在で107.8%となり、過去1年間のノンパフォーマンス・ローン・レシオは2.4%と安定しました。

結果的に2012年6月30日末に至る6ヶ月間では、地域銀行のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分への寄与は、5億4,500万ユーロに達しました。エンポリキとカリパルマの株式を所有するSACAM International の減損費用の計上を除いた場合では、地域銀行のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分への寄与は6.5%増の6億1,200万ユーロとなります。

1.2. - LCL

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-12	Change Q2/Q2	H1-12	Change H1/H1
Revenues	1,001	+2.2%	2,013	+2.3%
Operating expenses	(630)	+1.2%	(1,246)	+0.9%
Gross operating income	371	+3.8%	767	+4.6%
Cost of risk	(66)	(12.5%)	(144)	(7.2%)
Operating income	305	+8.2%	623	+7.7%
Net income on other assets	1	nm	-	-
Income before tax	306	+8.6%	623	+7.7%
Tax	(107)	+21.6%	(209)	+17.1%
Net income	199	+2.6%	414	+3.5%
Minority interests	9	+3.2%	20	+3.6%
Net income Group share	190	+2.6%	394	+3.5%

LCLは、引き続き中小企業と個人顧客の事業計画に関わるファイナンスによって地域経済を支援しました。2012年度第2四半期は2011年度末から始まった傾向を引き継いで、預金が増加し、貸出しの伸びは抑えられました。

2012年6月30日現在のローン残高は、前年同期比0.7%増の878億ユーロに達しました。これは、前年同期比3.1%増で542億ユーロに達した住宅ローンの増加によるものです。一方2011年度上半期に大幅増(2010年6月末から2011年6月末の間に7.4%増)となった中小企業向けのローンは、前年同期比でほぼ横ばいで推移しました。

預金総残高は、前年同期比1.6%増の1,515億ユーロに達しました。2012年度第1四半期と同様、オン・バランスシートの顧客預金は、前年同期比13.7%増加しました。これは要求払い預金と定期預金の

12.2%の大幅増加によるものです。オフ・バランスシートの顧客預金は、主に投資信託(23.3%減)と証券ポートフォリオ(9.2%減)の減少により前年同期比で8.6%減少しました。

2012年6月末の貸出／預金比率は、2011年6月末時点の129%に対し13ベース・ポイント改善し、116%となりました。

第2四半期の収益は2011年度第2四半期比2.2%増、また住宅購入貯蓄プランの引当金の修正後は0.1%増の10億100万ユーロに達しました。この堅調な増加は着実な事業展開と金利収入の増加によるものです。金利収入は、貸出金利差益の増加と資金調達削減に伴って2011年度第2四半期比5.4%⁽¹⁾増加しました。手数料収入は、取引高、特に証券取引高の減少によってマイナスの影響を受けたことから、前年同期比で6.1%⁽¹⁾減少しました。

営業費用は厳格に抑えられ、2011年度第2四半期から2012年度第2四半期の間に僅かに1.2%上昇しました。リスク関連費用も、ローン残高に対し28ベース・ポイントに抑えられました。その結果、営業利益は2011年度第2四半期から2012年度第2四半期の間に8.2%増加し、3億500万ユーロに達しました(住宅購入貯蓄プランの引当金を修正後は1.0%の増加)。

ローン残高に対する不良債権比率は2.4%で、第1四半期比で横ばいとなりました。一方、カバー・レシオは2012年3月末時点の76.7%に対し、77.4%に上昇しました。

全体では、第2四半期の純利益グループ帰属分は、2011年第2四半期比2.6%増の1億9,000万ユーロとなりました。

⁽¹⁾ 住宅購入貯蓄プランを除く。

2. 国際リテール・バンキング

ユーロ圏包括合意のギリシャ支援策の実施による影響が顕著であった第1四半期以降、第2四半期も厳しい経済状況が続きました。2012年度第2四半期の当事業部門の純利益グループ帰属分は、2011年度第2四半期の6億9,500万ユーロの損失と2012年度第1四半期の8億4,600万ユーロの損失に対し、2億7,100万ユーロの損失となりました。2012年度上半期では、2011年度上半期の7億5,400万ユーロの損失に対し、11億1,700万ユーロの損失となりました。

(in millions of euros)	Q2-12	Change Q2/Q2	H1-12	Change H1/H1
Revenues	769	+1.8%	1,515	(0.8%)
Operating expenses	(585)	+13.1%	(1,092)	+7.9%
Gross operating income	184	(22.8%)	423	(17.9%)
Cost of risk	(502)	+14.7%	(1,446)	+91.5%
Operating income	(318)	+59.3%	(1,023)	x4.3
Equity affiliates	28	+3.7%	52	(4.7%)
Net income on other assets	(2)	nm	-	nm
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	(292)	(45.1%)	(971)	+78.5%
Tax	26	nm	(150)	(38.9%)
Net income (after tax) from discontinued activities	2	(82.4%)	4	(71.2%)
Net income	(264)	(63.0%)	(1,117)	+44.0%
Minority interests	(7)	nm	-	nm
Net income Group share	(271)	(60.9%)	(1,117)	+48.2%

イタリアでは2012年のGDP成長率予想がマイナス2%となったにもかかわらず、イタリア北部のカリパルマ独自の地域銀行ネットワークによって、堅調な事業展開を見せています。貸出しと利ざやが堅調で、純利益グループ帰属分は2011年度第2四半期比6.2%増となりました。顧客流動性剰余金は2012年3月末比横ばいの12億ユーロとなり、当グループの他のビジネス活動の資金源として活用されました。

ローン残高は、市場全体のローン残高が1.0%減少したにもかかわらず（出典:Associazione Bancaria Italiana）、2011年12月31日時点比0.4%増の337億ユーロとなりました（当グループの他のビジネスによる資金調達を除く）。リテール顧客へのローンは主に住宅ローンに牽引されて1.4%増加しました。法人向けローンは、市場の動きと連動して0.6%減少しました。極めて競争の厳しいマーケット環境の中でも、預金は主に長期家計預金が増えたことにより、2012年6月30日現在で349億ユーロとこれまでの水準を維持しました。

カリパルマは堅調な事業展開を続けており、そのためリスク関連費用の増加にも順調に対応しています。2012年度第2四半期収益は4億2900万ユーロで、前年同期比9.0%増、2012年度上半期は前年同期比5.5%増となりました。この収益増は、生命保険とプライベート・バンキングの業績が伸びて手数料収入が増加したことと、利ざやが堅調に伸びたことによりです。

同時に、カリパルマは大規模な費用削減プログラムを開始しました。支店ネットワークの事務処理の過程と組織を継続的に見直しながら、当銀行は希望退職プランを導入しました。2014年末までにおよそ400名の従業員の退職給付費用をカバーするために、2012年度第2四半期に当プランの引当金とし

て5,400万ユーロを計上しました。コスト比率は2011年度第2四半期と同様の水準となり、2011年度に計上された退職給付費用と統合関連費用を除き、0.6ポイント低下の59.2%でした。

リスク関連費用においては、ビジネス環境の悪化によってマイナスの影響を受けたものの、イタリアの市場平均を下回りました。2012年度第2四半期は68.8%増の8,900万ユーロで、2012年度上半期は50.2%増の1億6,200万ユーロとなりました。2012年6月30日現在のノンパフォーミング・ローン・レシオは7.1%で、カバー・レシオは44.5% でした。2012年度上半期のリスク関連費用は、ローン残高に対し98ベース・ポイントとなりました。

税控除後(税控除により2012年度第2四半期には4,700万ユーロ、2012年度上半期には5,100万ユーロの節税)、第2四半期のカリパルマの純利益グループ帰属分に対する寄与は4,100万ユーロ(前年同期比10.5%減)で、上半期は7,200万ユーロとなりました(2011年度上半期比10.5%減)。

ギリシャでは、ギリシャ国内の複数の銀行がエンポリキ銀行の買収を提案してきましたが、これは通常の監督機関による承認、ギリシャ金融安定基金(HFSF)による承認、欧州委員会による国の救済規定に準拠した審査が前提となります。

2012年度第2四半期中は、クレディ・アグリコルS.A.のエンポリキ銀行への資金供給(純額)は横ばいで、6月30日現在で46億ユーロでした。エンポリキは、6月初めにELA(緊急流動性支援)から財政支援を受けることができたものの、欧州中央銀行(ECB)からの資金調達は削減されました。2012年3月31日時点のクレディ・アグリコルS.A.のキャピタル・エクスポージャーは6億ユーロだったのに対し、2012年6月30日現在は4億ユーロでした。7月には、クレディ・アグリコルS.A.により23億ユーロの資本注入が行われました。この増資手続き後、クレディ・アグリコルS.A.の資本エクスポージャーは27億ユーロとなり、資金供給(純額)は23億ユーロに減少しました。更には、船舶ファイナンス・ポートフォリオのローンのクレディ・アグリコルS.A.への譲渡移転が、9月に開始される予定です。

クレディ・アグリコルS.A.へのエンポリキのルーマニア、ブルガリア、アルバニアの子会社売却では、売却完了分、売却案進行中分共に当期決算に対する影響は全くありませんでした。

2012年度第2四半期の収益は、預金に伴う費用が増加したことから前年同期比28.6%減少し、1億250万ユーロとなりました。

2012年度第2四半期の営業費用は前年同期比9.2%増の1億4,600万ユーロとなりました。絶対額では前期比で2,200万ユーロ増加し、この半分は希望退職に伴う費用(2012年第2四半期は140名の退職)で、残りの半分は種々の増税によるものでした。

2012年度第2四半期のリスク関連費用は、2011年度第2四半期比8.5%増の3億7,700万ユーロでした。これには、事業セクター及びカントリー・リスク関連引当金の1億4,300万ユーロが含まれます。2012年度第2四半期のノンパフォーミング・ローン・レシオは、前期比0.9ポイント上昇し、36.8%となりました。カバー・レシオは57.3%で、そのうちの76.8%は法人向けローンでした。

全体では、エンポリキの2012年度第2四半期純利益グループ帰属分に対する寄与は-3億7,000万ユーロで、2012年度上半期は-12億7,500万ユーロでした。

イタリアとギリシャを除く当グループの他の事業体は、貸出しに対する預金のバランスを強化しました。2012年6月30日現在では、オン・バランスシートの預金総額が96億ユーロ、ローン総残高が93億ユーロとなり、3億4,000万ユーロの預金超過となりました。それら事業部門の純利益グループ帰属分への寄与は、2011年度第2四半期が+4,300万ユーロだったのに対し、2012年度第2四半期は+5,800万ユーロに達しました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q2-12	Q2-12*	Change Q2/Q2*	H1-12	H1-12*	Change H1/H1*
Revenues	884	884	(11.2%)	1,805	1,805	(9.7%)
Operating expenses	(384)	(384)	(10.1%)	(794)	(794)	(6.4%)
Gross operating income	500	500	(12.0%)	1,011	1,011	(12.2%)
Cost of risk	(444)	(372)	+3.8%	(1,069)	(752)	+11.1%
Operating income	56	128	(39.4%)	(58)	259	(45.4%)
Equity affiliates	5	5	+28.6%	10	10	+34.2%
Income before tax	61	133	(38.1%)	(48)	269	(44.1%)
Tax	(34)	(53)	(25.9%)	(37)	(120)	(26.5%)
Net income	27	80	(45.9%)	(85)	149	(53.9%)
Minority interests	(29)	(4)	nm	(113)	(10)	nm
Net income Group share	56	84	(38.7%)	28	159	(46.8%)

*事業適応計画の影響分とアゴスの追加引当金を修正後

専門金融サービス部門は、2011年12月14日に発表された事業適応計画に沿って事業の減速と流動性対応を継続しました。消費者金融では、クレディ・アグリコル消費者金融(CACF)の連結上のローン残高は、2012年3月末から6月末の間に13億ユーロ減少し、497億ユーロとなりました。この減少は3つの要因が同時に重なり合って起こったもので、その要因とは消費者金融市場の低迷、事業適応計画の推進、6億ユーロの要管理債権の売却です。CACFの消費者信用残高も、連結上ローン残高、クレディ・アグリコル・グループまたは第三者に代わって管理しているローン残高を含めて761億ユーロに減少しました。それらは主にフランス(37%)とイタリア(36%)で計上されており、残高の27%は、その他の

国が占めています。CACFも引き続き外部の資金調達源を多様化させ、2011年6月30日以降外部からの資金調達額は37億ユーロ増加しています。クレディ・アグリコル・リーシング & ファクタリング (CAL&F)も、運営計画通りに事業展開しています。2012年6月末現在のリース残高は195億ユーロとなり、前年同期比で1.0%減少しました。売掛債権は11.4%減の286億ユーロとなりましたが、フランス国内ではこれを遥かに下回る減少率にとどまりました。

当事業部門の2012年度上半期の業績結果は、第2四半期において第1四半期に比べて大幅な改善が見られたことで、損益分岐点に達しました。第2四半期の収益は、8億8,400万ユーロに達しました。これは取扱額の減少によりマイナスの影響を受けましたが、利ざやの増加によって一部相殺されました。収益は2011年度第2四半期比で11.2%低下しましたが、費用も同様な傾向を辿り、運営効率を高めるための努力が反映された結果、10.1%減少しました。リスク関連費用は、アゴスの追加引当金を除いた場合、2011年度第2四半期比でほぼ横ばいとなりました。フランス国内の消費者金融のリスク関連費用は、2011年第四半期から始まった下降傾向を引き続き辿りました。海外の消費者金融では、主にイタリアの子会社アゴスの業績悪化によってマイナスの影響を受けました。

2012年度第2四半期は、第1四半期の-2億8,000万ユーロの引当金計上に続いて、更に8,400万ユーロの引当金が計上されました(グループ帰属分の影響額は純額で3,700万ユーロ)。2012年6月末現在、アゴスのノンパフォーミング・ローンは総残高の13.8%に達し、カバー・レシオは84%でした。3月以降、同子会社のためにガバナンスとリスク管理の面で、具体策が採用されました。更に、リース・ファイナンスとファクタリングのリスク関連費用は、2011年第2四半期比で横ばいとなりました。但し、その内訳は前年と異なっています(2011年度第2四半期にエンポリキ・リーシングのリスク関連費用が2,000万ユーロだったのに対し、2012年第2四半期は1,100万ユーロでした。また2012年第2四半期には幾つかの海外事業引当金が計上されています)。最終的に、当事業部門は2012年度第2四半期に事業適応計画関連のリスク関連費用1,200万ユーロを戻し入れました。全体では、同計画とアゴスの追加引当金の影響分を修正後、2012年度第2四半期リスク関連費用は3.8%増の3億7,200万ユーロとなりました。

2012年度第2四半期の当事業部門の純利益グループ帰属分は5,600万ユーロとなり、アゴスの追加引当金による影響分を除いた場合、2011年第2四半期比38.7%減の8,400万ユーロとなりました。

消費者金融は、この業績(2012年度第2四半期の当事業部門)に4,100万ユーロ寄与し(事業適応計画とアゴスの追加引当金を除いた場合は6,900万ユーロ)、リース・ファイナンスとファクタリングは1,500万ユーロ寄与しました。

4. 資産管理(SAVINGS MANAGEMENT)

当事業部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、資産運用サービスが含まれます。

2012年6月30日現在の当事業部門の総資産運用額は1兆394億ユーロで、2011年12月31日時点比

330億ユーロ増となりました。同期間のマーケットが極めてプラスの効果をもたらしたことで、堅調な事業展開となり、この大幅な増加につながりました。マーケット、会計範囲、通貨による影響(合計+187億ユーロ)を除き、総資産運用額の伸びは主に資産運用部門の運用資産(AUM)138億ユーロの増加に牽引されました。

2012年度上半期のカセイス(CASEIS)のビジネスは同様なプラス傾向を辿り、カストディー資産は5.7%、預かり資産は6.6%の増加となりました。

当事業部門の業績結果は、保険部門において4四半期連続でギリシャ国債の交換費用(民間部門関与;PSI)によりマイナスの影響を受けましたが、2012年度第2四半期の業績はいかなる例外項目の影響も反映していません。但し、BESに売却したBES Vidaの株式の売却益2,800万ユーロを含んでいます。

第2四半期の当事業部門の純利益グループ帰属分は4億1,300万ユーロに達し、前年同期比19.0%増となりました(2011年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、保険部門のPSI導入後の費用計上8,100万ユーロを伴いました)。

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-12	Change Q2/Q2	H1-12	Change H1/H1
Revenues	1,215	(8.9%)	2,602	(1.7%)
Operating expenses	(606)	(3.1%)	(1,194)	(3.7%)
Gross operating income	609	(14.0%)	1,408	+0.1%
Cost of risk	(4)	nm	(55)	(49.8%)
Operating income	605	+3.5%	1,353	+4.4%
Equity affiliates	3	+70.0%	5	+2.0%
Net income on other assets	28	nm	28	nm
Income before tax	636	+8.5%	1,386	+6.6%
Tax	(187)	(10.1%)	(428)	(1.4%)
Net income	449	+18.7%	958	+10.5%
Minority interests	36	+15.2%	90	+16.7%
Net income Group share	413	+19.0%	868	+9.9%

資産運用部門では、アムンディ(2011年7月1日に買収したBFTの資産運用オペレーションを含める)が、極めて堅調な事業展開をしました。資産運用額は、2011年末時点と比べ5.2%増加し、2012年6月末にはほぼ6,930億ユーロに達しました。同期間で、アムンディは欧州の投資信託では第1位となりました。2012年度上半期の銀行支店ネットワークを除く新規流入純額は209億ユーロでした。マネー・マーケットへの流入に牽引され企業・法人セグメントでは134億ユーロ、主に欧州のディストリビューター・セグメント(販売会社)では22億ユーロの新規流入がありました。従業員積立セグメントへの流入額は53億ユーロに達し、上半期の運用資産は16.6%の増加となりました。過去何年かの上半期、下半期よりもペースは遅いものの、当上半期も銀行支店ネットワークからの流出が続きました(2012年度上半期

は-71億ユーロ)。全体では、2012年度上半期の流入純額は、マーケットと通貨による影響額+205億ユーロを含めて、138億ユーロに達しました。

2012年度第2四半期は、**アムンディ**は引き続き良好な業績を達成しました。収益は、前年同期比で12.4%減少しました。この減少は、プロダクト・ミックスが以前ほど有利ではなかったことによる固定手数料の減少によるものです。しかしながら、営業費用は引き続き減少し(2012年度第2四半期は前年同期比7.5%減)、第2四半期のコスト比率は59.0%と良好な水準に達しました(2011年度第2四半期比3.1%上昇)。

上半期の収益も大幅減となり、決算上では0.5%減少しましたが、2012年度第1四半期に計上された売却益の修正後は8.4%の増加となります。パフォーマンスに基づいた手数料は2011年度上半期の4,300万ユーロから2012年度上半期では6,100万ユーロへと増加しました。上半期のコスト比率は、55.4%と極めて競争力の高い水準に達しました²。2012年度上半期のアムンディの純利益は前年同期比3.0%増の2億5,300万ユーロに達し、純利益グループ帰属分への寄与は1億8,600万ユーロでした(2.8%増)。

資産運用サービス部門では、**CACEIS**が2012年年初以来堅調な事業展開を続けています。マーケットが債券ビジネスに有利な影響を与えていることと連動して、堅調な事業展開により運用資産額が伸びました。その結果、カストディー資産は2兆3,880億ユーロに達し、2011年12月31日時点比で5.7%増加しました。2012年度上半期の現金預金は前年同期比で大幅に増加しました。2011年12月31日時点比で預かり資産は6.6%増の1兆1,090億ユーロに達しました。

2012年度上半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比25.4%増の8,000万ユーロとなりました。

プライベート・バンキングは、金融危機が続く中で堅調な事業展開となりました。2012年度上半期の流出額は僅かに留まりました。これはフランス国内のオン・バランスシート商品における市場での競争と、ユーロ圏内における信用不安材料によってマイナスの影響を受けました。運用資産額はマーケットと通貨からのプラス影響を受け、2012年6月30日現在では1,281億ユーロに達しました。フランス国内の運用資産は542億ユーロで、2011年12月31日時点に匹敵する水準となりました。海外では、同期間の運用資産は2.6%増の709億ユーロに達しました。

2012年度上半期の純利益グループ帰属分は、5,720万ユーロで、前年同期比で12.8%減少しました。

保険部門では、2012年度第2四半期の保険料収入が53億ユーロとなり、マーケットごとに業績は異なる傾向を見せました。フランス国内の生命保険では、2012年度第2四半期の保険料収入が前年同期比14.9%減の37億ユーロとなりました。損害保険では、フランス国内では引き続き伸びを見せ、2012年第2四半期は保険料収入が5億2,000万ユーロとなり、前年同期比で5.1%増加しました。一方、マーケットの伸びは4%に留まりました³。団体信用保険では、保険料収入が2億5,600万ユーロで、引き続き堅

調な事業展開となりました。これは住宅ローンの保険収入によるものですが、消費者金融部門の減速からはマイナスの影響を受けました。逆に海外の事業では、保険料収入が引き続き増加し2012年度第1四半期比で6%増の7億8,500万ユーロとなりました(但し、2012年度第2四半期に連結範囲から除外されたBES Vidaを除く)。

生命保険の運用資産はユニットリンク型保険392億ユーロを含めて、2012年6月30日現在で2,184億ユーロに達しました。2011年12月31日時点で54億ユーロの運用資産を保有していたBES Vidaを除き、2012年度上半期の生命保険の運用資産は1.0%増加しました。

資産運用は慎重に行われています。その結果、2012年度第2四半期中にユーロ圏周辺諸国の国債は更に30億ユーロ売却されました。クレディ・アグリコル・グループの保険会社のユーロ圏周辺諸国(ギリシャ、アイルランド、ポルトガル、スペイン)の国債に対する総エクスポージャーは、2011年12月31日時点の153億ユーロから、2012年6月30日現在の85億ユーロに削減されました。投資も同様に革新的に管理されています。当グループは、フランス経済、特に地方の自治体のファイナンスを行うために設計された新たな資産クラスへの投資を開発しています。

2012年度第2四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、BES Vidaの株式をBESに売却した売却益2,800万ユーロを含めて、2億8,100万ユーロに達しました。2012年度第2四半期の収益は、BES Vidaを連結範囲から除外したこと(2011年第2四半期の収益では連結分は1,100万ユーロ)と不利なベース効果によって、前年同期比14.3%減の4億9,400万ユーロとなりました。営業費用は抑えられて、税務基準額から控除できるPSIの損失に関連する特別利益を除き前年同期比で横ばいとなりました。

² 2012年第1四半期に売却益の6,000万ユーロが修正されました。

³ FFSA の数値。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2012年度上半期のCA-CIBの純利益グループ帰属分は4億4,500万ユーロ、第2四半期は2億8,900万ユーロに達しました。

2012年度第2四半期の継続事業の純利益グループ帰属分は、2億9,600万ユーロでした。社債発行とローン・ヘッジ(1億8,500万ユーロ)の影響額と、事業適応計画の僅かな影響額(-2,400万ユーロ)の修正後では、2012年度第2四半期の継続事業の純利益グループ帰属分は1億3,500万ユーロで、前年同期比58.3%減少しました。

この業績結果は、高収益を達成した2012年の第1四半期に比べてキャピタルマーケットの活動が減少したことを反映しています。その一方で、ファイナンス事業は厳しい経済環境が続く中、2012年第2四半期にはリスク関連費用が増加したにもかかわらず、安定的な事業展開を見せました。

第2四半期の非継続事業の費用はごく僅か(−700万ユーロ)でした。

継続事業

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-12	Q2-12*	Change Q2*/Q2*	H1-12	H1-12*	Change H1*/H1*
Revenues	1,348	1,091	(19.9%)	2,753	2,516	(13.9%)
Operating expenses	(830)	(830)	(3.3%)	(1,666)	(1,706)	(3.0%)
Gross operating income	518	261	(48.0%)	1,087	810	(30.4%)
Cost of risk	(101)	(101)	+62.2%	(132)	(132)	(2.5%)
Operating income	417	160	(63.6%)	955	678	(34.1%)
Equity affiliates	40	40	+14.9%	80	80	+16.7%
Net income on other assets	12	12	nm	12	12	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Income before tax	469	212	(54.6%)	1,047	770	(29.4%)
Tax	(174)	(81)	(42.7%)	(343)	(243)	(34.1%)
Net income (after tax) from discontinued activities	-	-	nm	-	-	nm
Net income	295	131	(59.8%)	704	527	(27.1%)
Minority interests	(1)	(4)	nm	(2)	(6)	nm
Net income Group share	296	135	(58.3%)	706	533	(25.4%)

*社債発行とローン・ヘッジの再評価を修正後。事業適応計画の費用控除前。

ファイナンス事業

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-12	Q2-12*	Change Q2*/Q2*	H1-12	H1-12*	Change H1*/H1*
Revenues	524	492	(23.1%)	1,029	1,018	(20.3%)
Operating expenses	(234)	(234)	(0.7%)	(468)	(468)	+2.3%
Gross operating income	290	258	(36.1%)	561	550	(32.9%)
Cost of risk	(84)	(84)	+68.1%	(111)	(111)	(13.7%)
Operating income	206	174	(50.9%)	450	439	(36.5%)
Equity affiliates	40	40	+15.8%	80	80	+16.7%
Net income on other assets	1	1	nm	1	1	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Income before tax	247	215	(43.4%)	531	520	(30.8%)
Tax	(81)	(69)	(39.4%)	(154)	(150)	(41.6%)
Net income (after tax) from discontinued activities	-	-	nm	-	-	nm
Net income	166	146	(45.0%)	377	370	(25.3%)
Minority interests	(5)	(5)	nm	(12)	(12)	nm
Net income Group share	171	151	(43.2%)	389	382	(22.6%)

*ローン・ヘッジの再評価を修正後。事業適応計画の費用控除前。

2012年度第2四半期の**ファイナンス事業**は、全体的に堅調でした。2011年12月14日に発表された「Distribute to Originate」という新たなビジネス・モデルは、第2四半期中徐々に本格的な展開がなされました。まず地方自治体セグメントでプレディカ(Predica)と最初のパートナーシップが結ばれました。前期までと同様にCA-CIBは資金調達が必要額を削減するために資産圧縮を継続し、14億ユーロのローンを売却しました。2011年以降、平均2.2%のディスカウントで合計90億ユーロを売却してきました。商業銀行部門では、前期までは取引量が著しく減少しましたが、第2四半期はビジネスの増加によりCA-CIBは西ヨーロッパとEMEA地域でのシンジケーション部門における第1位の地位を確立しました(出典:トンプソン・ファイナンシャル)。

収益には、事業適応計画に伴うローン売却費用の-3,900万ユーロが含まれています。ローン・ヘッジが、第2四半期にはこれまでよりも大きな影響をもたらしました。前四半期の収益が1,000万ユーロだったのに対して、7,200万ユーロの収益となりました。これは、取引先の財務状況の悪化を反映したものです。

リスク関連費用は過去数四半期間に渡って比較的低い水準を維持していましたが、2012年度第2四半期は8,400万ユーロで、2011年度第2四半期比68.1%増加しました。これには限定的な取引に対する特定引当金が含まれます。

全体では、2012年度第2四半期のファイナンス事業の純利益グループ帰属分は、前年同期比43.2%減の1億5,100万ユーロ⁴となりました。

⁴ 社債発行の再評価と事業適応計画の影響分を修正後。

資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q2-12	Q2-12*	Change Q2*/Q2*	H1-12	H1-12*	Change H1*/H1*
Revenues	824	599	(16.9%)	1,724	1,498	(8.9%)
Operating expenses	(596)	(596)	(4.3%)	(1,198)	(1,238)	(4.8%)
Gross operating income	228	3	(97.0%)	526	260	(24.3%)
Cost of risk	(17)	(17)	+38.2%	(21)	(21)	x 3.3
Operating income	211	(14)	nm	505	239	(29.0%)
Equity affiliates	-	-	nm	-	-	nm
Net income on other assets	11	11	nm	11	11	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Income before tax	222	(3)	nm	516	250	(26.4%)
Tax	(93)	(12)	(56.1%)	(189)	(93)	(17.0%)
Net income (after tax) from discontinued activities	-	-	nm	-	-	nm
Net income	129	(15)	nm	327	157	(31.0%)
Minority interests	4	1	(63.1%)	10	6	(6.7%)
Net income Group share	125	(16)	nm	317	151	(31.7%)

*社債発行の再評価を修正後。事業適応計画の費用控除前。

2012年度第2四半期の**資本市場及び投資銀行部門**の業績は堅調でした。しかし、第1四半期に極めて活況であった資本市場ビジネスは、今期に入ってそのボリュームが縮小したため、マイナスの影響を受けました。そんな中で、CA-CIBは第2四半期の起債市場においてマーケットシェアを伸ばし、全ユーロ債発行のリーグ・テーブルにおいて、第4位となりました(出典:トンプソン・ファイナンシャル)。債券デリバティブに関しても、市場は閑散で、ビジネスも低迷したにもかかわらず、堅調な事業展開となりました。

株式部門では、7月に2つの大きな取引が発表されました。1つ目はCLSAに関するもので、CA-CIBが保有するCLSAの株式19.9%をCITICS International(中信証券)に対し売却すること、残りの持分80.1%をCITICS Internationalが取得するためにCA-CIBはプット・オプションをつけることで、この発表は、2012年7月20日に行われました。2つ目はシュブルーに関するもので、クレディ・アグリコル・シュブルー(Crédit Agricole Cheuvreux)とケプラー(Kepler)の合併に関して、CA-CIBはケプラー・キャピタル・マーケットズ(Kepler Capital Markets)と独占交渉に入ったことが2012年7月17日に発表されました。この2つの取引は、2012年度第2四半期の決算に対しては、何ら影響を与えませんでした。

2012年度第2四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益には、社債発行(2億2,400万ユーロ)の再評価によるプラスの影響額が含まれています。この影響額は前四半期では僅かでしたが(2012年度第1四半期は100万ユーロ)、第2四半期中はクレディ・アグリコルS.A.のリファイナンス条件が悪化したことを反映しています。この影響額を修正後の収益は5億9,900万ユーロで、前年同期比16.9%の減少に留まりました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q2-12	Q2-12*	Change Q2*/Q2	H1-12	H1-12*	Change H1*/H1
Revenues	37	37	nm	(298)	65	nm
Operating expenses	(23)	(23)	(14.8%)	(50)	(50)	+0.0%
Gross operating income	14	14	nm	(348)	15	nm
Cost of risk	(27)	(27)	+28.6%	(78)	(39)	(49.9%)
Operating income	(13)	(13)	(81.9%)	(426)	(24)	(81.0%)
Equity affiliates	-	-		-	-	nm
Net income on other assets	-	-		-	-	nm
Change in value of goodwill	-	-		-	-	nm
Income before tax	(13)	(13)	(81.9%)	(426)	(24)	(81.0%)
Tax	6	6	(73.9%)	159	14	(87.2%)
Net income (after tax) from discontinued activities	-	-	nm	-	-	nm
Net income	(7)	(7)	(85.7%)	(267)	(10)	(88.0%)
Minority interests	-	-		(6)	-	nm
Net income Group share	(7)	(7)	(85.4%)	(261)	(10)	(88.1%)

*事業適応計画の影響額を修正後。

2012年度第2四半期の非継続事業の純利益グループ帰属分は、ごく僅かでした。事業適応計画に関連した影響は無く、純利益グループ帰属分は、-700万ユーロでした。

6. コーポレート・センター

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-12	Change Q2/Q2	H1-12	Change H1/H1
Revenues	(503)	nm	(214)	(22.0%)
Operating expenses	(214)	(15.4%)	(437)	(5.7%)
Gross operating income	(717)	x3.4	(651)	(11.7%)
Cost of risk	(20)	(58.3%)	(10)	(76.3%)
Operating income	(737)	x2.9	(661)	(14.7%)
Equity affiliates	(24)	nm	(52)	nm
Net income on other assets	2	x2.3	(4)	x6.1
Income before tax	(759)	x3.0	(717)	(7.5%)
Tax	61	(51.2%)	4	(98.5%)
Net income	(698)	x5.4	(713)	+36.2%
Minority interests	41	2.6%	87	(1.4%)
Net income Group share	(739)	x4.4	(800)	+30.8%

2012年度第2四半期のコーポレート・センターの収益は、2011年度第2四半期の+4,300万ユーロに対し、-5億300万ユーロとなりました。第2四半期の主な項目は、インテサ・サンパオロ (Intesa Sanpaolo) の株式の減損費用4億2,700万ユーロでした。

尚、2011年度第2四半期では、インフレ連動資産のリターンが大幅増加したことによって高収益を実現したことは注記すべきです。

更に、2012年度第2四半期の営業費用は前年同期比15.4%減少しました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-12	Change Q2/Q2	H1-12	Change H1/H1
Revenues	8,398	(8.1%)	17,492	(3.5%)
Operating expenses	(5,319)	+0.0%	(10,545)	(0.0%)
Gross operating income	3,079	(19.5%)	6,947	(8.2%)
Cost of risk	(1,394)	(12.4%)	(3,504)	+25.5%
Operating income	1,685	(24.5%)	3,443	(28.0%)
Equity affiliates	74	+12.4%	137	+5.3%
Net income on other assets	44	nm	40	nm
Change in value of goodwill	(6)	(98.4%)	(6)	(98.4%)
Income before tax	1,797	(6.0%)	3,614	(20.2%)
Tax	(880)	(9.1%)	(1,881)	(3.0%)
Net income	2	(87.1%)	4	(69.2%)
Minority interests	919	(4.4%)	1,737	(33.2%)
Net income Group share	863	(2.1%)	1,667	(30.8%)

2012年度第2四半期は、当グループは財務健全性を高めました。コア・ティア1レシオ（バーゼル2.5）は11.3%と、2011年度末比110ベース・ポイント上昇しました。

当グループのローン残高は前年同期比3.9%増の8,056億ユーロに達しました。これはフランス国内のリテール・バンキングにおいて、過去12ヶ月間に貸出しが2.4%伸びたことが主な要因です。資金調達源では、当グループのオン・バランスシートの顧客預金が前年同期比9.9%増、610億ユーロを上回る伸びで6,781億ユーロとなりました。地域銀行とLCLはオン・バランスシートの預金を同期間で7.7%増加させました。

2012年度第2四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、前年同期比8.1%減の83億9,800万ユーロとなりました。同期間では、景気の低迷にもかかわらず、フランス国内のリテール・バンキングは引き続き堅調で、収益は1.3%増加しました。

費用は抑えられ、引き続き安定しました。

リスク関連費用には、エンポリキのリスク関連費用である-3億7,700万ユーロが含まれていますが、12.4%減少しました。欧州包括合意によるギリシャ支援策の影響額を除いた場合、ローン残高に対するリスク関連費用は前年同期63ベース・ポイントだったのに対し、2012年度第2四半期は61ベース・ポイントでした。

全体では、2012 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は 8 億 6,300 万ユーロとなり、前年同期比同水準でした。

クレディ・アグリコル S.A. の 2012 年第 2 四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders の財務情報で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A. により公開されています。

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31			
Denis Kleiber	+33 (0) 1 43 23 26 78		
Nathalie Auzenat	+33 (0) 1 57 72 37 81	Marie-Agnès Huguenin	+33 (0) 1 43 23 15 99
Sébastien Chavane	+33 (0) 1 57 72 23 46	Aurélie Marboeuf	+33 (0) 1 57 72 38 05
Fabienne Heureux	+33 (0) 1 43 23 06 38		

Disclaimer

Review procedures have been conducted by the statutory auditors on the half-year consolidated summarised accounts. The statutory auditors' review report is being issued.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented have been prepared in accordance with IAS 34.